

2008年度 環境活動報告

2008年度 環境活動報告

東洋製罐は、ISO14001統合システムにより、全事業所一丸となって目標達成に向けた活動をしています。2008年度は、材料使用量原単位の削減を新たな活動項目に加え、より省エネ・省資源を意識した活動としました。その結果、重点課題であるエネルギー使用量原単位の削減および二酸化炭素排出量の削減(生産活動)ともに、目標を達成することができました。一部の項目では目標の未達成もありましたが、活動としてはほぼ順調に遂行することができました。

東洋製罐2008年度実績

評価指標：★★★★目標を達成できた ★★★目標は達成できなかったが、前年よりも改善 ★取り組みが不十分

※基準年度：2005年

| 分野 | 項目 | 2008年度目標 | 2008年度実績 | 評価 | |
|-----------------|-------------------------------|-------------------------|--|------------|------|
| 生産活動 | 1. エネルギー使用量原単位の削減 (生産高原単位) | 基準年度比9%削減 | 基準年度比12%削減 | ★★★★ | |
| | 2. 二酸化炭素排出量の削減 | 生産活動 | 基準年度比11.5%削減 | 基準年度比15%削減 | ★★★★ |
| | | 物流部門 | 基準年度比7%削減 | 基準年度比6%削減 | ★★ |
| | 3. 廃棄物総排出量の削減 | 基準年度比25%削減 | 基準年度比22%削減 | ★★ | |
| | 4. 廃棄物サーマルリサイクル量の削減 | 基準年度比52%削減 | 基準年度比65%削減 | ★★★★ | |
| | 5. PRTR法対象物質の排出・移動量の削減 | 基準年度比18%削減 | 基準年度比20%削減 | ★★★★ | |
| | 6. VOC排出量の削減 | 基準年度比15%削減 | 基準年度比16%削減 | ★★★★ | |
| 7. 材料使用量原単位の削減 | 基準年度比1%削減 | 基準年度比1%削減 | ★★★★ | | |
| 製品開発 | 8. 環境配慮型製品の拡販、開発 | TULC、E・RPの拡販 容器軽量化推進 | 計画通り推進 | ★★★★ | |
| 環境 マネジメント | 9. 環境マネジメントシステムの導入 | 3事業所 | 2事業所 | ★★ | |
| | 10. 環境リスク管理の推進 | 環境リスク管理の構築と運用 | 構築完了 | ★★ | |
| | 11. 化学物質管理の推進 | 化学物質管理の構築と運用 | 構築完了 | ★★ | |
| | 12. グリーン購入比率の向上 | 95% | 古紙配合率偽装問題の 影響で評価できず | — | |
| | 13. コピー用紙購入量の削減 | 基準年度比21%削減 | 基準年度比26%削減 | ★★★★ | |
| | 14. 容器のリサイクル活動推進 | 業界団体における積極的活動 | 計画通り推進 | ★★★★ | |
| | 15. LCAの実践 | LCAによる評価法の確立と 業務への展開 | 各種製品評価実施 開発部門への導入開始 カーボンフットプリントの試行 | ★★★★ | |
| 環境 コミュニケーション | 16. 環境コミュニケーションの充実 | 展示会、学会への積極的参加 | 展示会への出展 ステークホルダー・ミーティング開催 | ★★ | |
| | 17. 環境報告書の発行 | 環境報告書および サイトレポートの発行 | 環境・社会報告書2008発行 全事業所にてサイトレポート発行 | ★★★★ | |

2009年度からの環境目標

2009年度からの環境目標

東洋製罐は、総合研究所を2009年からISO14001統合システムに加え、さらなる活動の充実を目指しています。今後は、重要課題の省エネルギーに加え、環境リスク管理の推進および環境コミュニケーションについて、特に力を入れて活動していきます。二酸化炭素排出量の削減活動においては、2005年度にコミットメントした長期目標「2010年度に1990年度比6%削減」に基づき、2010年度および2011年度の目標を設定しました。目標を達成すべく全事業所一丸となって活動を推進していきます。

東洋製罐2009年度からの目標

※基準年度：2005年

| 分野 | 項目 | 2009年度目標 | 2010年度目標 | 2011年度目標 | |
|-----------------|-------------------------------|--|--------------|--------------|------------|
| 生産活動 | 1. エネルギー使用量原単位の削減 (生産高原単位) | 基準年度比13%削減 | 基準年度比15%削減 | 基準年度比16.5%削減 | |
| | 2. 二酸化炭素排出量の削減 | 生産活動 | 基準年度比8%削減 | 基準年度比12%削減 | 基準年度比13%削減 |
| | | 物流部門 | 基準年度比15%削減 | 基準年度比16%削減 | 基準年度比17%削減 |
| | 3. 廃棄物総排出量の削減 | 基準年度比25%削減 | 基準年度比27%削減 | 基準年度比28%削減 | |
| | 4. 廃棄物サーマルリサイクル量の削減 | 基準年度比81%削減 | 基準年度比85%削減 | 基準年度比85.5%削減 | |
| | 5. PRTR法対象物質の排出・移動量の削減 | 基準年度比22%削減 | 基準年度比24%削減 | 基準年度比25%削減 | |
| | 6. VOC排出量の削減 | 基準年度比25%削減 | 基準年度比25.5%削減 | 基準年度比26%削減 | |
| 7. 材料使用量原単位の削減 | 基準年度比1.5%削減 | 基準年度比2%削減 | 基準年度比2.5%削減 | | |
| 製品開発・販売 | 8. 環境配慮型製品の拡販、開発 | 軽量・省エネルギー容器の開発と販売推進 | | | |
| 環境 マネジメント | 9. 環境マネジメントシステムの導入 (直系子会社) | 2事業所 | 1事業所 | さらなる拡大 | |
| | 10. 環境リスク管理の推進 | 環境リスク管理システムの運用、環境リスク管理手法の確立 | | | |
| | 11. 化学物質管理の推進 | 総合的な化学物質管理体制の運用 | | | |
| | 12. グリーン購入比率の向上 | 目標値検討 | 新目標値で活動 | | |
| | 13. コピー用紙購入量の削減 | 基準年度比27%削減 | 基準年度比27.5%削減 | 基準年度比28%削減 | |
| | 14. 容器のリサイクル活動推進 | 業界団体における積極的活動 | | | |
| | 15. LCAの実践 | 開発業務への導入、データベースの構築、関連会社の支援、カーボンフットプリントへの対応 | | | |
| 環境 コミュニケーション | 16. 環境コミュニケーションの充実 | 積極的な環境情報発信、展示会への出展、ステークホルダー・ミーティング開催 | | | |
| | 17. 環境報告書の発行 | 環境報告書の発行、サイトレポートの発行 | | | |

東洋製罐グループ環境目標

エコアクションプラン2010

東洋製罐グループでは、グループ環境ビジョンを実現するための環境目標と行動計画をまとめた「東洋製罐グループエコアクションプラン2010」を策定し、グループ各社がこの目標達成に向けて活動しています。

2010年度までの目標値と2008年度の結果一覧表

| 環境ビジョン | 具体的項目と環境目標 | 数値目標 | | |
|--------------------------|------------------------------|------------|------------------|------------|
| | | 2008年度計画 | 2008年度実績 | 2010年度目標 |
| 1) 環境配慮型製品の継続的創出 | a. 環境配慮型製品の量的拡大と質的向上 | — | — | — |
| | b. 環境配慮型製品販売の推進 | — | — | — |
| 2) 生産活動にともなう環境負荷低減の推進 | a. エネルギー消費原単位の削減 | 基準年度比 -2% | 基準年度比 -9% | 基準年度比 -15% |
| | b. 二酸化炭素排出量の削減 | 90年度比 -7% | 90年度比 -9% | 90年度比 -13% |
| | c. 物質投入量原単位の削減 | 基準年度比 -2% | 基準年度比 -9% | 基準年度比 -4% |
| | d. 廃棄物削減とゼロエミッションの推進 | 基準年度比 -15% | 基準年度比 -23% | 基準年度比 -19% |
| | ① 廃棄物排出量の削減 | — | — | — |
| | ② ゼロエミッション拠点数の増加(再資源化率99%以上) | 58拠点 | 57拠点 | 65拠点 |
| e. 化学物質管理 | ① PRTR法対象化学物質の排出・移動量原単位削減 | 基準年度比 -33% | 基準年度比 -35% | 基準年度比 -43% |
| | ② トルエン・キシレン等有機溶剤の排出・移動量削減 | 基準年度比 -26% | 基準年度比 -43% | 基準年度比 -42% |
| 3) 調達・物流・販売のグリーン化の推進 | a. 事務用品等のグリーン購入比率向上 | 91% | 古紙偽装問題等により定義見直し中 | — |
| | b. 物流工程での二酸化炭素排出量原単位削減 | 基準年度比 -4% | 基準年度比 -5% | 基準年度比 -11% |
| 4) 資源循環の推進 | a. マテリアルリサイクル率の向上 | 95.8% | 96.1% | 96.1% |
| | b. リサイクルビジネスの推進 | — | — | — |
| 5) 環境コミュニケーションの推進 | a. 環境コミュニケーションの促進 | — | — | — |
| 6) 環境経営の推進と環境経営情報システムの構築 | a. 環境経営範囲の拡大と環境マネジメントシステムの推進 | — | — | — |
| | b. 効果的な環境経営情報システムの構築・運用の推進 | — | — | — |

※基準値は2002～2004年度の平均値
※赤字は2010年度目標達成

掲載することができなかった項目に関して

今回、冊子版には掲載することができなかった下記情報については、東洋製罐ホームページの環境情報に公開します。

URL:<http://www.toyo-seikan.co.jp>

- グリーン調達・購入
- 化学物質管理
- PRTR 法対象化学物質データ
- 環境にかかわる訴訟・科料・罰金等
- 環境リスクマネジメント
- 環境会計
- 電気・水・燃料の使用量
- INPUT-OUTPUT 詳細データ
- 環境活動年表
- 東洋製罐社外団体への参加
- ガイドライン対照表
- 東洋製罐グループ各社の環境マネジメントシステム構築状況

編集後記

東洋製罐グループは企業としての説明責任を果たし、社会から信頼される企業であるために毎年報告書を発行しています。企業の社会的責任(CSR)が強く求められている時代を反映し、2009年度のタイトルは社会性により重点を置いた「社会・環境報告書」としました。11回目となる今回の発行にあたっては、「何のために報告書を作成しているのか。」「読者は誰なのか。」という原点に立ち返りました。トップメッセージを構成の中心に据え、各ステークホルダーとのかかわりを切り口とし、「海外展開」「環境経営」「製品品質・安全」を重要な項目としました。

また、報告範囲の拡大による冊子ページの膨張を避けるため、報告内容は冊子とWebページに媒体を分けました。グループとして報告できる項目を増やし、全てのステークホルダーに適切な情報公開ができるよう、これからも改善に努めます。

今回の発行では、社会性という環境部門の枠を超えた内容がメインとなった影響で、情報入手や内容の確認に従来より時間がかかりました。これを踏まえ、来年度以降、グループ全体の活動情報を効率的に入手するための部門横断的な編集組織など、新たな作成方法を検討していきたいと考えています。

最後に、報告書作成のために今回も海外を含めたグループ各社、各事業所、各部門の多くの方々にご協力をいただきました。無事に発行できたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

東洋製罐株式会社 環境部 社会・環境報告書作成担当